



山寺（立石寺奥の院にて）



山形県天童市天童ホテルにて

総代研修会の報告

寿楽院では、ただ今本堂と客殿の建設を計画中です。五年先には、新しい伽藍が見られます。ご支援をお待ちしております。



芭蕉と手水盤
「閑さや岩にしみ入る 蟬の声」
『おくのほそ道』の旅で、芭蕉が門人の曾良とともに山寺を訪れたのが元禄二年（陽暦）七月十三日の夕刻である。麓の「預り坊」に宿をとり、その足で山上の堂に登った事が『曾良旅日記』には記されている。二人が山寺を訪れた十年後の元禄十二年四月十九日にその「預り坊（預り里）」より奉寄進されたのが、この手水盤である。その年の四月十九日というのは「四月中の申の日」に当たってをり、日枝神社の大祭日となっている。またこの手水盤の前面には「預り里」を筆頭として寄進した人の名が数名刻まれている。また両側面にも十一名の人名が刻まれてをり当時の山寺の様子を探る上で重要な手がかりであり、貴重な文化財である。

空海の言葉 シリーズ

釈教は、一言之を蔽え
ば、唯二利に在り。
「御請来目録」

●●●お釈迦様の教えは、ひと言で言ってしまうと、自利と利他のただ二利に尽きる

漢文で書かれているお経を漢音や呉音や梵語で読むので、一般にはわかりにくいのは当然です。お釈迦様の教えは、八万四千の訪問と言われるほど、たくさんのお話を引いたりして、人間としての生き方を、手を変え品を変えて教えておられます。弘法さんは、「お釈迦様の教えは、お経の本でも何千巻とあるが、つまるところは、自分の利益を求めると、他人の利益を願うこと、の二つに尽きる。」といわれています。

